

# 平成 23 年度 事業報告

## 【横浜市保土ヶ谷区生活支援センター】

保土ヶ谷区生活支援センターは、多岐にわたる支援を行っていくために、生活支援センターを中心として、他関係機関や地域全体とのネットワークを継続・拡大し、一方通行にならないような支援を心がけてきた。

また、すべての事業が相互に関わりながら、他職種との連携を密に図りつつ、地域から支持されるような支援を目指してきた。

### (ア) 施設の運営

#### ① 利用者支援

地域で生活する精神障害者の生活に密着した相談や、疾病、制度利用など、ひとりひとりの利用者に沿ってきめ細かな支援を行った。

#### 【センター登録者数】

H23年度	878名	男	553名
		女	325名
H22年度	753名	男	483名
		女	270名

#### ② 訪問・同行支援

利用者の安定した地域生活の継続のため、自宅への訪問を積極的に行った。また、必要に応じて通院、銀行、日中活動先に同行するなど、利用者や同居する家族への居宅生活を支えた。

#### ③ ボランティアの育成

1. 保土ヶ谷区福祉保健センター、保土ヶ谷区社会福祉協議会とボランティア講座を共催し、ボランティアの育成と啓発に協力した。
2. 各種サークル、イベント等へのボランティア調整を行い、定期的な活動の場として協力を頂きつつ、相互理解することができた。
3. 社会福祉協議会の学生ボランティア受け入れを行い、福祉教育の一端を担った。

#### ④ 家族支援

1. 保土ヶ谷区家族会「たちばな会」の活動を支援し、家族定例会・役員会への出席を行い、情報提供や情報交換したり、センター行事において交流を深めたりするなど、相談しやすい関係作りを行った。センター内に家族会の図書貸し出しスペースも設け、個々が利用しやすい環境作りに努めた。
2. 疲弊し問題を抱えた家族へのアプローチにも重点的に取り組み、状況に即した関係機関や関係団体への橋渡しを行い、家族の相談窓口としても機能を果たした。
3. 区福祉保健センターとの共催で実施する家族教室では、臨床心理士の講師を招き、

良好な対人関係を築くためのポイントをお伝えする企画を実施し、家族会入会の有無に関わらず、多くの参加をいただき、好評を得た。

⑤ アウトリーチ

1. 出張相談を定期的に行い、センターに来ることのできない利用者・家族も気軽に使える居場所・相談の場を設けた。そこから、センター利用につながることや、関係機関・関係団体からの紹介で相談に来所するケースも随時見受けられ、徐々に認知されてきている。
2. 高齢の家族に対して、地域ケアプラザや居宅介護支援事業所と連携を取り合い、家族のサービス利用につなげた。

⑥ 関係団体との協働

1. 日頃から保健・福祉・医療等の他機関との連携ネットワーク構築に取り組んだ。区内作業所やボランティアグループとの共催で、クリスマス会を実施し交流を図ることや、区内のケアプラザに出向き、包括支援センターや介護支援専門員へセンターの紹介や協働の可能性などを意見交換し、民生委員向けの共催講座等の実施や地域で生活する精神障害者一人一人に合った支援を、チームで検討し展開した。
2. 区内精神科病院にセンターPR活動を行ったり、病院プログラムにてセンター見学を取り入れ、利用につながるなど、連携を強化した。
3. 精神保健に携わる区内関係機関に働きかけ、精神保健福祉ネットワーク会議の企画・実施を行い、事例検討や情報交換等を通じ、顔のみえる関係作りの一端を担った。

⑦ 地域との交流

1. 恒例となった市立桜ヶ丘高校茶道部を交えてのお茶会の催しは、多くの障害者と学生との交流の場として、また、福祉教育の一環としても有意義な時間となっている。
2. 地区センターやケアプラザ祭りにも積極的に参加し、地域の方の声を直接伺う機会や普及・啓発を行う機会を持つことができた。
3. ソフトボールは広く地域の作業所や在宅の精神障害者を集め、毎月実施日を待たれる行事となっている。

【23年度の地域支援・交流事業実施状況】

事業名	事業数	実施回数	参加人員
地域支援事業	10	23 回	355 名
地域交流事業	14	22 回	1953名

⑧ 苦情解決

利用者からの苦情や相談について、定期的に第三者委員と苦情解決責任者（所長）及び関連職員が解決にあたり、結果を全職員で共有し、サービス向上に努めた。

第三者委員 田村綾子：日本精神保健福祉士会常任理事

【23年度の苦情件数とおもな内容】

年度	苦情/相談件数	主な内容
H23年度	苦情 4件（内3件はセンター内で解決） 相談 0件	職員、他利用者の言動について等

※第三者委員には、苦情・相談がない場合は、利用者との交流を図っていただいた。

⑨ 事故事例・ヒヤリハット事例

1. 事故事例 1件：調理中のけが

(イ) ヒヤリハット事例 6件：フロア・調理室窓の施錠忘れ(1)、夕食注文表の書き漏れ(1)、

USBメモリのしまい忘れ(1)、鍵の返却し忘れ(1)

利用者外出同行中の所持品をバスの車内に置き忘れ(車庫に問い合わせ無事発見)(1)

(ウ) 利用者へのサービス

① 日常生活相談

住居や就労・公的制度の利用、対人関係についてなど日常生活に関する相談に対して、電話や面接により利用者のニーズを明確にして適切に対応した。また、嘱託医による相談（予約制）を毎月4回行った。

【センター利用状況（単位：人）】

		平成23年度			平成22年度		
		男性	女性	計	男性	女性	計
来場者数	実数	1,0914	5,172	16,086	9,850	5,154	15,004
電話相談件数	実数	8,485	5,852	14,337	6,908	4,985	11,893
面接相談件数	実数	1,676	888	2,564	1,023	948	1,971
同行訪問数	実数	132	100	232	51	56	107
非構造面接・その他	実数	2,039	939	2,978	1,687	1,162	2,849

② 食事・入浴・洗濯サービス

毎日の夕食や入浴、洗濯サービスを提供することで、安定した生活のリズムを作り、当事者同士の交流の場ともなっている。夕食サービス注文においては利用者の声も反映させ、メールでの注文方法を取り入れ、サービス向上に努めた。

③ 生活情報の提供・インターネットサービス

1. 社会生活の経験が少なく、生活上必要な情報を得られにくい利用者には、センター便りや掲示板等で情報を提供した。
2. ホームページを適宜更新し、リアルタイムに情報を提供した。

【各種サービスの利用状況】

		平成 23 年度			平成 22 年度		
		男性	女性	計	男性	女性	計
夕食サービス	実数	6,001	2,660	8,661	5,685	2,668	8,353
入浴サービス	実数	220	82	302	307	65	372
洗濯サービス	実数	221	91	312	96	132	229
インターネットサービス	実数	73	53	126	40	29	69

④ 自主グループ活動の支援

メンバーミーティング、英会話サークル、将棋サークル、アートサークル、パソコンサロン、パンドカナル、ナースお茶会、アロマお茶会等、その他適宜利用者の意見や要望を取り入れながら、毎月実施している。

また、ピア活動の一端としてピアミーティングを毎月実施し、利用者間のつながりや継続的な話し合いをもつ機会となっている。

【ピア活動実施状況】

月	内 容	人数
5	ミーティングの進め方について	13
6	家事・一人暮らしに必要なものは？	5
7	薬について	12
8	病気との付き合い方	9
9	作業所での人間関係について	9
10	良い人間関係の築き方について	10
11	苦手な人との接し方	5
12	病気と付き合いながら上手く人生を生きていく工夫	3
1	フリートーク	5
2	参加の意思表示・進め方について等	6
3	ピアミーティングのあり方について	5

【自主グループ事業実施回数】

年度	事業数	実施回数	参加人員
H23 年度	42	117 回	1,160 名
H22 年度	26	132 回	1,002 名

⑤ センター行事実施状況

- 4月 花見（帷子川沿い散策）
- 5月 ランチ会
- 6月 カラオケ
- 7月 バスハイク（マリンパーク&三崎産直センター）
- 8月 花火大会、ランチ会
- 9月 カラオケ
- 10月 ケアプラザ・地区センター文化祭参加
- 11月 ケアプラザ祭り参加
- 12月 音楽会  
クリスマス会（ほどがやネットワークの会、ボランティアグループ窓との共催）
- 1月 新年会
- 2月 ボウリング
- 3月 バスハイク（マザー牧場）

\* 7月・3月のバスハイクはメンバー実行委員会形式にて企画・実施した。

⑥ 利用者の声の反映

センター職員と利用者との意見交換の場として毎月実施しているメンバーミーティングやセンター独自のアンケートを通じて得られた意見や要望、ご意見ボックスに寄せられた様々な声をセンターの運営に反映させた。

主な内容:フリースペースの利用に関する提案、イベントや食事サービスに関する提案、対人関係の不満など

(工) 自立生活アシスタント事業

自身の病気や障害により日常生活や社会生活に相当な制限を受けている単身者や、同居家族の病気等で支援が受けられない方などを対象に、個々の障害特性をふまえ、はじめての単身生活を希望する方への支援や住み慣れた地域での安定した生活が送れるよう支援を行った。より身近な存在として丁寧に関係づくりを行い、関係機関との連絡調整を密に図りながら、個人の課題や目標に沿って社会参加等の支援を行った。

【自立生活アシスタント事業（単位：人）】

	H23年度	H22年度
支援回数（登録者数）	1,731(19)	2,648(17)
支援回数（未登録者数）	374(11)	380(10)
面接相談（来所）	480	539
電話相談	1,628	1,974
訪問	559	564
外出付き添い等	203	241

文書	8	29
支援合計	4,983	6,375

(数字は延べ)

才) 地域移行・地域定着事業

今年度より始まった事業である。ケース支援者が総じて長期入院者であり『生活能力』『社会適応力』の低下に対して、各利用者へオーダーメイドの支援を模索しながら行った。病院や入院中の患者に対しての啓蒙・啓発活動や利用者個人の支援を行うと同時に、この事業の効果を強める“点”ではなく、“線”と“面”を基軸とした支援を複数の関係機関と有機的に連携を図るネットワーク創りを行った。また、支援を通じて、利用者と家族の『埋もれていた心の傷・歪み』が噴出・表面化された事があり、家族関係の修復・家族への直接支援も行った。

【地域移行・地域定着事業】

① 支援者数	7名	
② 入院期間(延べ)	10年以上	5人
	6年	1人
	4年	1人
③ 支援内容	支援内容	回数(延べ)
	1. 面接	32回
	2. 通所支援	16回
	3. 外出支援(2の通所施設以外)	26回
	4. 住まい援助	47回
	5. 生活援助	78回
	6. 情報提供	102回
	7. 退院後フォロー	6回
	8. 家族支援	13回
	9. 関係機関調整	47回
	10. 事業周知のための活動	14回
	11. 当事者との合同支援(ア活動)	1回
12. ケアカンファレンス	9回	
	合計	391回

(才) 職員研修

- ① 職員の資質向上のため、各種団体が実施する研修に職員を派遣し、すべての職員が必要な研鑽を積めるように配慮した。77件の研修に対し、延べ99名が参加した。
- ② 事業所内研修として「個人情報保護」に関する研修を実施し、個人情報保護に関する意識の向上と、管理に関するルール確認を行った。
- ③ 相談支援従事者講習に2名の職員を参加させた。

平成23年度  
横浜市保土ヶ谷区精神障害者生活支援センター決算書(合算)

施設名:保土ヶ谷区生活支援センター

運営法人:社会福祉法人 横浜市社会事業協会

【決算額】

(単位:円)

科 目	予算額	決算額	差引増減	説 明
<b>人 件 費</b>	<b>56,038,000</b>	<b>55,179,951</b>	<b>858,049</b>	人件費戻入額 (858,049円)
職員給与	42,338,499	39,848,780	2,489,719	所長1名 常勤職員5名 非常勤職員4名
賃 金	5,559,240	6,626,769	-1,067,529	アルバイト(調理):1,223,080 臨時職員1名(無休化対応):4,476,329 嘱託医:965,520
共 済 費	8,140,261	8,704,402	-564,141	法定福利費:6,211,090 退職給与引当金:1,112,500 福利厚生費:180,812 労務管理費:1,200,000
<b>施設管理費</b>	<b>5,284,000</b>	<b>4,994,531</b>	<b>289,469</b>	
光熱水費	2,720,000	2,564,455	155,545	電気:1,029,591 水道:803,693 ガス:731,171
庁舎管理・委託料	2,474,000	2,349,026	124,974	
修繕積立金	150,000	150,000	0	
利用者負担金 充当分	▲ 60,000	68,950	8,950	入浴:30,200 洗濯:31,300 ネット:7,450 水光熱費に充当
<b>運 営 費</b>	<b>4,502,000</b>	<b>4,569,988</b>	<b>-67,988</b>	
旅費	400,000	383,910	16,090	出張旅費
消耗品費	380,000	772,623	-392,623	印刷用トナー:276,465 事務用品等:496,158
印刷製本費	200,000	107,902	92,098	センター便り印刷他
修繕費	200,000	182,790	17,210	建物修繕等
通信運搬費	590,000	664,814	-74,814	電話料金:518,624 切手等:146,190
賃借料	1,412,000	793,764	618,236	コピー,PCリース:390,343 パソコンネット保守:117,600 車両レンタル:285,821
備品等購入費	400,000	790,040	-390,040	備品等購入:254,035 新聞代:76,320 行事:459,685
保険料	190,000	202,830	-12,830	総合保障制度
雑費	730,000	671,315	58,685	手数料:84,189 研修費:89,060 燃料費:13,875 租税公課:242,748 その他:241,443
<b>本部繰入金</b>	<b>236,000</b>	<b>334,000</b>	<b>-98,000</b>	
<b>計</b>	<b>66,060,000</b>	<b>65,078,470</b>	<b>981,530</b>	